

## 会 議 録

### 1 会議名

令和元年度 第3回和田区地域協議会

### 2 議題（公開・非公開の別）

（1）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

（2）自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について（公開）

### 3 開催日時

令和元年9月6日（金） 午後6時30分から午後7時33分まで

### 4 開催場所

ラーバンセンター 第1研修室

### 5 傍聴人の数

1人

### 6 非公開の理由

—

### 7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、  
泉 幸雄、市橋邦夫、岩澤 弘、植木泰行、笠原完治、土屋史郎、  
平原 匡、前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

### 8 発言の内容

#### 【佐藤係長】

・小林委員、高橋委員を除く12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

#### 【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：泉委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

**【堀川センター長】**

資料により、説明。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

**【水澤会長】**

次第3議題（1）「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

平成29年7月に、和田区地域協議会では、資料No.1のとおり、「雪を生かした地域づくりの推進について」と「住民組織の充実と地域活性化について」を自主的審議事項とした。

最初に「雪を生かした地域づくりの推進について」の経過を振り返ると、まず、「市内の他地域同様に、和田区も冬になると、多くの積雪に伴う除雪の負担、そして降雪のため、屋外の活動が満足にできず、地域活動が停滞しがちになる」ことを地域の課題とした。

そして、その課題の解決に向けて考えられる取り組みとして、地域の活性化を図ることを目的に、地域の負担となっている雪を楽しむ取り組み、雪を利用する事業を和田区の団体や組織に提案し、イベントの開催や利雪の事業化へ結び付けて行こうと考えた。

これまでの間、地域協議会では、地域活動支援事業を活用して、和田区雪イベントを開催することを検討し、イベントの目的や趣旨等を整理し、具体的な企画書（案）の作成に向けた協議も行ってきた。

また、昨年11月と12月には、和田区関係団体（12団体）を交え、協議会で作成した「和田区雪イベント企画書（案）」を提示し、イベント開催の実現性について意見交換を実施した。

その後、雪イベント開催と実行委員会の立ち上げについて、和田区関係団体からも賛同を得られたことから、その関係団体を構成メンバーとして、実行委員会を立

ち上げ、4月には第1回目の会議を開催した。

また、このイベントは、今年度の地域活動支援事業に採択され、現在は来年2月の開催に向け、実行委員会が中心になって動いている。

以上がこれまでの経過だが、来年4月までとなっている、私たち協議会委員としての残任期も踏まえながら、このテーマを今後どう進めていくか、何をいつまでにやらないといけないのか、その方向性も含めて、委員全員から意見をお聞かせいただきたいと思っている。それでは、委員1人ずつ、これについての意見をいただきたいと思う。

#### 【秋山委員】

4月に、実行委員会がスタートし、現在、市から補助金交付してもらうための準備をしている最中である。市からの補助金交付は1回目が8月、2回目が10月、3回目が1月の予定である。

#### 【水澤会長】

このテーマについては、実行委員会の立ち上げまでこぎつけた。来年4月までの委員残任期間も意識しながら、協議会で、他にやることがあるのかどうか、そのようなことも含めて意見をいただければと思う。このテーマについては、雪イベントの実行委員会が立ち上がったので、それでよいと言えばそれまでだが、今後、実行委員会に関わりながら、イベント開催後には、その反省を話し合うことになる。今後、このテーマをどう進めていくかということも含めて、意見をいただければと思う。

#### 【有坂委員】

実行委員会が4月に設立されて、活動をしているので、その推移を見守りながら、委員としてどのようなことができるのかを考えていくしかないと思う。まだ全体の動きが分からないので、今のところ言えることはそれだけである。

#### 【泉委員】

地域活動支援事業を事業提案した際に、実行委員会からイベント概要を説明してもらった。私たちは、提案された事業について、説明された内容で良いのかどうかを決めるべきだと思うし、実際にどの内容を行うのか、選択する段階だと思う。そ

れについては協議会が決めるのか、それとも実行委員会が決めるのか、その判断をここで決め、具体的に動き出す時期に来ていると思う。

**【市橋委員】**

先ほどから話があるように、我々委員も実行委員会のメンバーとして関わっているので、早くイベントの内容を決めて行くべきだと思う。具体的な話が出てくれば、協力していきたいと思っている。これから本格的に会議が行われるのかもしれないが、もう少し会議が開催されてもよいのではないかと感じている。

**【岩澤委員】**

実行委員会が立ち上がったが、正直に言って、漠然とした感じである。補助金の関係で話が出されているものの、それに関連し、どの程度準備が進んでいるかなど、詳細についてはまだ分からない。いずれにしても、ある程度目鼻が付くような説明が聞きたい。そのように皆で準備をしていかないといけないと思っている。

**【植木委員】**

自主的審議事項として決定し、委員も関わりを持っていくというスタイルになっている。具体的には、協議会委員が先頭に立ってやる事業でなく、サブで協力をするというスタンスで考えている。実行委員会から具体的な計画が出てきた段階で、何をお手伝いするのかといった話し合いが今後されていくのだろうと思っていた。

**【笠原委員】**

私もその点を聞きたい。とにかく雪イベントを成功させたいということで実行委員会が立ち上がり、協議会の委員も一個人として関わって行くということで、実行委員会の各部会に所属している。しかし、前回の実行委員会が行われてから、もう2か月近くが経過しようとしている。実行委員会は動いているのか。何を心配しているのかというと、実行委員会を立ち上げて、各小学校のPTA会長・副会長から実行委員長と副実行委員長に就任してもらったが、実際には、イベントの経験のある一部の関係団体が動いているに過ぎない。来年2月に開催するのであれば、もっと関係者に声を掛けて準備を進めるべきではないか。

**【土屋委員】**

笠原委員と全く同じ意見。実行委員会が立ち上がったので、我々協議会委員とし

ては、実行委員会から、何か相談やお願いをされたら、協力していけばよいのではないかと考えている。先ほども話があったように、我々委員も各部会に携わっているが、何を、どこで行うのか、誰に声を掛けたらよいのか、その辺が全く分からない状態のまま、今日まで来てしまった。果たして、来年2月にイベントが開催できるのだろうかといった心境である。

#### 【平原委員】

非常に長々と協議会を欠席していたので、現状を把握していないが、詳細な説明を待ちたいと思う。我々委員もそれぞれの部会に分かれているが、今後どのように動いていけばよいのかを知りたい。

#### 【前川委員】

実行委員会を立ち上げて、我々委員も各部会に分かれ、担当も分業化されている。私は会計担当であるが、同じ担当の秋山委員から、実行委員会の通帳を作ってもらうなど、準備を進めている。ただ、イベントや広報については、メンバーの様々な意見の中で決まっていくものではないかと思う。

協議会委員としては、雪のイベントの目的が達成できるように、最大限、協力していくのがよいと思う。秋以降においても、実行委員会で全体会合を行う際、しっかりと事業の目的を皆で再確認し、それに進んでいけばよいのではないかと考えている。その中で、私自身が期待しているのは、若い人たちによるリーダーの育成である。イベントの開催をきっかけにして最終的にはリーダーの育成につながればよいと考えている。

#### 【橋本副会長】

今ほど、いろいろと話が出ているが、雪イベントについては、既に具体的な事業内容が出されているので、振興協議会などの関係団体との打ち合わせについては1回のみでなく、複数回に分けて綿密に行うべき段階だと思っている。

地域活動支援事業の補助金については、事業計画に基づき、今後、10月、1月と市から実行委員会に交付される見込みであり、それに合わせて、通帳も既に整備させてもらっている。

しかし、私の個人的な感想ではあるが、実行委員会における内容の詰めの作業が

遅れ気味の感が否めない。もっとスケジュール感を持って早急にやらないといけな  
いと思う。

#### 【水澤会長】

全ての委員から意見をいただいた。

まずは先ほどから出されている実行委員会の今後のスケジュールについてだが、  
私の方で聞いている話があるので、皆さんに報告したい。最初に総務部会を近日中  
に開きたいとのことだった。その後にイベント部会など、その他の部会についても、  
これから1回目の部会を順次開催したいとのことだった。

それと9月に入ったので、実行委員長と副実行委員長が和田区内の2つの小学校  
に雪イベントの協力を求めるため、実行委員会事務局の一員となっている脇野田ゆ  
かりの会の方と一緒に説明に入るとのこと、それは来週中を予定している。

先ほど説明したように、これから各部会という形で招集をかけ、会議を行って  
いくと聞いているので、案内があった際には委員についても出席をお願いしたい。今  
後は各部会の進行を見守っていただければと思う。

今ほど委員から、いろいろな意見をいただいた中で、雪イベントを成功させるべ  
く、我々委員も、このイベントに協力する、後方支援をしていく、見守っていくべ  
きという意見が多いと感じた。

この自主的審議事項である「雪を生かした地域づくりの推進」については、計画  
されている雪イベントを様々な形で支援していくということではよいのではないか  
と思う。2月の雪イベントが終了した後は、委員としての反省を踏まえて、意見交  
換会をしながら、地域のイベントとしてつないでいければと思う。

今後の進め方と方向性としては、実行委員会を見守りや支援をしていく関わり方  
でよいか。

#### 【泉委員】

先ほどの説明で、実行委員会事務局の一員である脇野田ゆかりの会の方が各小学  
校に出向いて、雪イベントの説明を行う予定とのことだが、そのような話は聞いて  
いない。和田小学校の後援会長を務めていることもあり、私が学校側に説明に行く  
という話になっており、既に説明済みである。

【水澤会長】

和田小学校へは事前に説明をしたのか。

【泉委員】

既に説明済みである。だから、脇野田ゆかりの会の方が和田小学校に出向く必要はないと思っている。

【水澤会長】

総務部会からは、実行委員長、副実行委員長が小学校に出向いた方がよいのではないかと話があったのだが、既に和田小学校へは、学校の後援会長である泉委員が学校長へ説明したということだが、イベントの詳細なスケジュールについても説明したのか。

【泉委員】

全て説明済みである。

【水澤会長】

今の件は関係者に報告しておきたい。PTA会長とも相談した方がよいものか。学校へは依頼文のような何か書面を作って、行かれたのか。

【泉委員】

以前いただいたものを持って学校へ説明に行った。

【水澤会長】

総務部会で集まった時に配布したものか。

【泉委員】

小学校には「除雪を行っている業者に対し、児童から感謝の作文を書いていただきます。」と書かれた資料をコピーし持って行った。校長と教頭には説明済みである。学校へ行ってその話をしたら、前PTA会長からも話は聞いているとの返事があった。ただし、学校組織あるいはPTA組織としては、このイベントに直接的に関わらない。PTA会長については、あくまでも1個人という立場で関わっていくのであって、PTA組織そのものがイベント全体に関わっていくことは、有り得ない。

また、雪国の特性として除雪という問題がある。冬シーズンは朝早くから通学路

を除雪してもらっているのです、その感謝の気持ちを子どもたちから作文に書いてもらい、除雪業者にメッセージを伝える方向で検討している。作文については全校児童全員が書くのか、一部の児童だけなのか、除雪業者へどのようにメッセージを渡すのかなど、詳細は決定していないが、今後実行委員会で決めることになると思う。

#### 【水澤会長】

泉委員が和田小学校の後援会長であることから、事前に学校側へ説明してもらったり、いろいろと対応をしていただきありがとうございました。今ほど話された感謝状などを除雪の事業者へ贈呈する件については、企画段階の話なので、今後、会議などで内容を詰めていきたいと思う。

いずれにしても、これからいろいろな形で委員から関わっていただくことになると思うので、よろしくお願ひしたい。また実行委員長、副実行委員長も含め、部会には出ていただき、イベントの流れをしっかりと把握していただければと思っているので、あわせてお願ひしたい。

#### 【堀川センター長】

この自主的審議事項については、平成29年に審議が開始され、資料No.1の課題解決に向けた取り組みの実施内容にも記されてあるとおり、「雪を楽しむ取組やイベント、雪を利用した事業等を、和田区の団体や組織に提案する。」ということが第1点。そして、「必要により組織化につなげたいうえで、イベントの開催や利雪の事業化へ結び付けていく。」というのが第2点目の取り組み内容であった。1点目については、協議会として議論して提案が行われている。それから、2点目の事業化への結び付きも、もう実際に活動されているので、この件については、有坂委員のとおり、あとは協議会としては見守る立場と、委員個人として、協力していくことしかないような気がする。この件はある意味で達成したことで良いと思う。

先ほど委員から、実行委員会の動きはどうなっているのかという発言があったが、そういう意味では、この協議会の場を通じ、進捗管理をしていくことが、この協議会の主な役割になってくると思っている。そして2月の雪イベント終了後に、地域協議会として総括してはどうか。そういったことを任期中における委員としてのミッションとしてよいのではないかと思う。

### 【水澤会長】

課題の解決に向けた取り組みということで、資料に記載されている実施内容は既に達成できたということだと思う。先ほどから話が出ているように、今後は実行委員会の活動を見守る、それから、イベントに参画していくということになると思う。そんな形で、まずはイベントを成功させる。これに尽きると思う。イベント終了後は、次年度に向けた、方向性を含めた総括を行うことについて諮り、委員全員の了承を得る。

### —自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について—

### 【水澤会長】

次第3議題（2）「自主的審議事項 住民組織の充実と地域活性化について」に入る。

このテーマも先ほどの「雪を生かした地域づくりの推進について」と同様に、平成29年7月にスタートした。

「和田区では、さまざまな分野の各種団体（住民組織）が活動しているが、現状では団体個々の活動にとどまり、地域の活性化の動きにつなげられていないのではないか。」ということが地域の課題であると整理した。

その課題の解決に向けた取り組みとして、さまざまな住民組織の連携を強化して、活動の充実を図り、地域の活性化を進めること。

各種団体が一つの場に集まり、意見交換や懇談会を進め、横の連携を図り、共通認識を持つこととした。

このテーマについては、「雪を生かした地域づくりの推進について」の審議が終了してから行うことにしていたので、これまでの間、この件についての話し合いは行っていない。

このような現状を踏まえるとともに、来年4月までとなっている、協議会委員としての残任期も考慮し、今後どうするか、何を、いつまでにやらないといけないのか、その方向性も含めて、委員全員から意見をお聞かせいただけたらと思う。

#### 【秋山委員】

このテーマは先送りをしてきたのだが、雪イベントを実施することについては決まったが、その中から、リーダー的な人材を探すというのはなかなか難しいと思う。このような雪イベントなど、いろいろな組織の中から出てきた方々を見て考えていったらどうかと思う。委員の任期中に結論を出すことは簡単なことではないが、頑張ってみたいと思う。

#### 【有坂委員】

住民組織を作るという目的で、この自主的審議事項がスタートしたわけだが、今回立ち上がった雪イベントの実行委員会が、ある意味で一つの組織を作ったことになるのではないかと思う。ただ残りの委員任期を考えると、時間がないのでそのまま次期協議会に、引き継いでいくのがよいのではないかと思う。次期委員へつなげるための「種まき」は出来たのではないか。

#### 【泉委員】

二兎を追う者は一兎をも得ずではないが、私はこのテーマの議論を断念すべきだと思う。雪イベントの対応だけでも手一杯なので、これ以上動けないのではないか。

雪イベントの中からリーダーを育てて行く、あるいはその中から見出して行くというような方向で結論付ければよいと思うし、もし委員任期の中でどうしても何か形に残さなければいけないとすれば、雪イベントの反省会を3月に行って、その中で委員から議論してもらい、今後も雪イベントのリーダーとして継続してほしいといった方向で考えていけばよいのではないかと思う。このテーマ独自の審議については断念すべきというのが、私の考えである。

#### 【市橋委員】

残された委員任期の中では無理ではないかと思うし、審議を断念した方がよいと思う。残りの時間を雪イベントに費やした方が、より成果が上がるのではないかと考える。

#### 【岩澤委員】

今まで委員が発言された内容のとおり、いずれにしても、関係団体から集まってもらい、雪イベント実行委員会を立ち上げることができているので、組織を作ると

いう観点では関連性があるのではないかととも思う。雪イベント終了後に場面を作り、その中で考えていくべきではないか。

#### 【植木委員】

泉委員の発言に私も賛成なのだが、現段階では、この雪イベントこそが、地域が皆で協力していける大きなイベントになり、活性化にも繋がっていくと思う。だから、雪イベントの動きと2番目のテーマを合わせた格好で、見守っていけたら良いと思う。

#### 【笠原委員】

今ほど発言された委員とあまり変わらない意見だが、このテーマについては、委員の残された任期で結論は絶対に出ないと思っている。というのは、地域の活性化は、十人寄れば、十人十色。非常に難しいテーマではあったが、雪イベントの実行委員会を立ち上げることができた。

一つのねらいは、地域における若い人の力を引き出すこと。もしこれが成功すれば、若い人を引き出す、一つのサンプルというか、サクセスストーリーができる。この雪イベントを継続することによって、地域の方向性を作っていくことができると思う。このテーマに対して審議する時間もないし、必要性もないと思う。

#### 【土屋委員】

このテーマについては、リーダーが育成できるまで、議論を続けていくべきと思っている。このテーマは、今後半年、1年で解決できるような問題ではないと思う。リーダーを育成することについて、どのようなアプローチで進めていったらよいかということも含め、ここで結論を導かなくても、和田区にある団体の現状を認識するだけでも意味があるのではないか。住民組織の連携を議論する前に、まずは、和田区に、どのくらいの団体があるのか確認すべきである。その現状認識を持った上で、このテーマについて議論を進めていけばよいのではないか。委員からも意見が出たが、残りの委員任期だけで、この問題の議論は解決しないと思うので、今後も継続すべきテーマだと思っている。

#### 【平原委員】

皆さんと総じて同じような意見だが、土屋委員が言われたように、和田区内にど

のような団体があるか、常に把握し続けなければいけないと思っている。これまでも、地域活動支援事業に提案されている団体の多くは、経験とノウハウを蓄積しているし、中には、地域のリーダーとなる人材がいるのではないかと思う。そのような団体にも声を掛けるなどして、例えば、雪イベントをきっかけに、雪イベント終了後、交流会や意見交換などを呼びかけることは、今年度内にはできるのではないか。それ以上については皆さんの言われるように、少し難しいと思うので今年度についてはそこまでやればよいのではないかと思う。

#### 【前川委員】

このテーマについては、審議する時間が少し足りないような気がする。今までの話と重複するが、目的は、地域活性化を図ることである。その中に若いリーダーの育成のようなものが両方のテーマに共通部分として出てきている。

雪イベントの開催に伴い、様々な団体に関わっており、また若い人から実行委員長、副実行委員長に就任してもらっているので、我々委員も協力しながらやっていく方がよいと思う。このテーマについては、時間をかけて審議する必要があると思うので、今後も継続して行っていくのがよいと思う。

#### 【橋本副会長】

基本的には皆さんが言われたように、まず雪イベントを成功させる。その中で、地域の各団体にはリーダーがいるので、雪イベントの開催を通じて、どのような対応をするのか、あるいはしてくれるのか、そういうものを見ながら、リーダーを育てていくのがよいと思う。雪イベントについては今回限りではないと思うので、今後2回目、3回目と回数を重ねて行きながら、リーダー育成していければよいと思っている。また、他地域でも活発に活動されている団体を、場合によっては活動に加われれば最高ではないかと思う。このテーマについては審議する時間を長めに見ていかないとうまくないと思う。今日明日の内容ではない。

#### 【水澤会長】

委員全員から意見を伺った。

このテーマについては、もう1つの自主的審議である「雪を生かした地域づくりの推進について」を先に議論してから行うことになっていたため、時間の都合上、

審議経過がほぼない状態ではある。雪イベントの実行委員会を立ち上げるため、関係団体との意見交換する中で、和田区にある各団体の様々な活動について認識することができたのではないかと思う。雪イベントを通じて、関係団体と意見交換も行ったので、これ以降は、実行委員会の推移を見守るような形になるのではないかと思う。最終的に、雪イベントを成功させた後、実行委員会が継続して、毎年イベント開催できるような形が取れるようになれば、活動の中から和田区の地域活性化に向けた様々な動きが目に見えて現れてくると思う。委員の残任期間はわずかだが、雪イベント終了後に、2つの自主的審議について考えていけばよいのではないかと考える。

**【堀川センター長】**

このテーマにおける課題解決に向けた取り組みの実施内容は、地域協議会を含めた懇談会の開催や一つの場に集まった意見交換の実施についてを掲げているが、このテーマ単体での実施は、簡単にはいかないということを皆さんから認識してもらい、一つの結論を任期中にまとめることが第1点。そして雪イベント終了後、活性化に向けたリーダーの育成についてあらためて協議するという方向性で、再度、このテーマについて協議することでよいのではないか。

**【水澤会長】**

雪イベントを成功させるため、今後も進展を見守っていき、イベント終了後は、残任期間の中で、このテーマについて協議を行っていくことで進めてよいかについて諮り、委員全員の了承を得る。

—事務連絡—

**【水澤会長】**

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

**【堀川センター長】**

・次回会議日程

行政改革推進課から、公の施設の使用料の改定について報告が予定されている。

和田区においては、この建物も含めて、五つほどあるのかと思う。消費税増税による使用料の変更、その他、施設の適正な使用料はいくらかということを検討している。その件について、地域協議会に報告したいという連絡が来ているので、その日程が決まり次第、皆さんに協議会を開かせてもらう通知をお送りしたい。10月から11月にかけて、そのような報告があることを承知いただきたい。

続いて配布資料についてだが、参考資料として、地域活動支援事業（和田区）の主な行事（10月、11月、12月）が書かれた行事予定を配布するので、時間があつたら、参加もしくは見学にいていただければと思っている。

・ 配布資料

平成30年度上越市地域活動支援事業事例集

柿崎区意見書の写し（柿崎区における公共交通の在り方に関する意見書）

上越市創造行政研究所ニュースレター「創造行政」No.44

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—その他—

【水澤会長】

その他ということで、平原委員から、雪イベントに関連した話があるそうなので、報告をお願いしたい。

【平原委員】

詳細は次回の協議会で説明させてもらうが、私とすれば、協議会で審議をしていただければと考えている提案がある。

現在、雪イベントの準備が進められているが、市でも雪室推進プロジェクトという事業に力を入れており、国の補助金などを活用しながら行っているプロジェクトがある。その関連で、上越妙高駅西口のフルサットの近くに、その補助金で購入した「コンテナ型雪室」が1個あり、公益財団法人雪だるま財団の所有物になるが、その雪室を我々で預かっていた。設置後2シーズン、コンテナの中に雪を入れて、

雪室として活用していたが、この度、周辺で工事がある影響により、雪室を移設することになった。フルサット駐車場の隅に移設したが、引き続き、雪室を活用しているものの、もっと地域の人に活用してもらった方がよりよい取り組みが期待できるのではないかと考えている。国の補助金だけでなく、市の補助金も交付してもらった事業なので、我々だけでずっと預かっているより、もっと適当な場所に移して活用した方がよいのではないかと考えている。今回、雪イベントが開催されるということで、イベントともリンクしながら、もっと雪室を活用してもらえればよいと考えている。雪を入れておけば、暑い夏でも雪を使うことができる。詳しい資料を事務局に渡すので、次回以降配布してもらい、委員の意見やアイデアをいただきながら協議できればと考えている。

個人的には、釜蓋遺跡公園の駐車場に雪室を置かせてもらえれば、活用が促進される適当な場所だと思っている。

【水澤会長】

皆さん初めて聞いた話だと思うし、雪室自体がどこにあるのかと知っている委員がどれだけいるのかと思う。ちなみに雪室は、雪だるま財団の所有なのか。

【平原委員】

そのとおり。

【水澤会長】

雪室は財団の所有物だが、それが設置された土地は民有地か。

【平原委員】

我々が管理する敷地である。

【水澤会長】

現在、雪室は民有地に設置されているそうである。その件については、事務局と相談して進めたらどうか。

【平原委員】

了解した。説明した情報を少し整理したいと思う。

【水澤会長】

この件についてどのように取り扱うかも含めて、協議させてもらいたいと思うが、

よいか。

【平原委員】

よい。

【水澤会長】

この件について皆さんから意見等があれば、事務局へ事前に話をしてもらってもよいと思うので、よろしく願いしたい。

・会議の閉会を宣言

## 9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831 (直通)

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

## 10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。